



Title	2019年度 意匠学会賞選考結果報告
Author(s)	大森, 正夫
Citation	デザイン理論. 2020, 76, p. 1-2
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/76919
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

2019年度 意匠学会賞選考結果報告

2019年度学会賞選考委員会

副委員長 大森正夫

受賞業績

福本繁樹氏

作品集「愚のごとく、然りげなく、生るほどに」の出版と《百華千態万象》シリーズの作品展

受賞理由

2017年に刊行された福本繁樹作品集「愚のごとく、然りげなく、生るほどに」(淡交社)は、大量蠟ふぶき、弓はじき、熱板押捺、スタンプ、たんぽ、拓本などの蠟防染や、蠟防洗脱色、風おくり乾燥、裏彩色、打ち合わせ染め、滲ませ染めなどの染法、また多曲屏風、レリーフ・パネル構成、布象嵌／モザイク技法など、さまざまな染色技法をうみだしていく染色家・福本繁樹氏の数十年にわたる創作活動の集大成である。本書は、3章構成になっており、第1章では作品イメージと創作理論を伝え、第2章では1983年から2017年までの作品を総覧し、第3章では4名からの作品評と詳細なバイオグラフィを載せているが、すべてに英文を付した完全バイオグラフィとなっている。

また、言語学、美学、思想、美術史、民俗学、人類学などをダイナミックに一体化して展開する福本氏独自の造形表現と言語表現を本書の中で作品と共に見て取ることができ、寄稿文にて佐藤道信・東京藝大教授が博覧強記と称するほどの福本氏の作品世界が余すことなく纏められている。

福本氏の作品は、蠟型、撒蠟、布象嵌などの独自な技法を駆使し、その抽象表現は角度の違いによって異なる相貌を見せ、染めでしか表せない表現効果も追求した凹凸する半立体的画面構成であり、数ミリ角の布片が無数に連続する精密なモザイク的文様である。また、自然の風光を孕んだような日本の伝統美に繋がる清冽な美を醸しだしている。

作品は、作家活動初期での日本現代工芸美術展、京展、日展(日本美術展覧会)などの入賞をはじめ、染織や工芸といった分野を超えた現代美術の世界において、日仏現代美術展佳作、アカデミー・デ・ボザール第1席、大阪絵画トリエンナーレ銅賞、エンバ賞美術展大賞など、グローバルな視点からも高く評価され、スイス・ローザンヌのビエンナーレ、ポーランドの国際タピスリー・トリエンナーレ、韓国の清州国際工芸ビエンナーレ、中

国の国際繊維芸術双年展などにも出品されている。

また、福本氏は南太平洋の島々のフィールドワークを通して民族美術を研究した『メラネシアの美術』(1976年)や、自らが表現手段とする染めを緻密に考察し、染めが世界にも比類のない日本固有の文化であることを論じた『染み染み染みる「染め」の文化』(1996年)など、作家としての研究著書も多い。

2019年度学会賞選考委員会では、福本氏の2019年度大会でのパネル発表『作品集装綴布象嵌作品《百華千態万象》シリーズ49点インсталレーション』での書籍とその書籍にまとめられたシリーズ作品展などの長期にわたる精力的かつ独自な活動を総合的に高く評価し、学会賞に相応しい業績であると判断した。この学会賞選考委員会からの提案は2020年5月23日の第3回役員会に報告され承認を得た。